

鮭 鱒 増 殖 事 業

丹 下 孚
藤 本 武

趣 旨

本事業は戦前から那珂川、久慈川に於て實施されてきた繼續事業であるが、※本年度は那珂川に鮭稚魚 152,000 尾を人工孵化放流すると共に、新たに放流魚の一部 2,525 尾に標識を附して放流した。

人工孵化放流經過

事 項	概 要
親魚 捕獲地点及漁法 捕獲期間 採卵使用尾数	那珂郡那珂湊町地先 那珂川 曳網 那珂郡柳河村地先 那珂川 留網 昭和 26 年 11 月 13 日 ~ 同年 12 月 3 日 ♀ 83 尾 ♂ 19 尾 計 102 尾
採卵・孵化 孵化場 採卵期間 採卵数量 孵化期間 孵化槽水温	水戸市霞町 那珂川孵化場 昭和 26 年 11 月 13 日 ~ 同年 12 月 3 日 (此の間 7 回採卵す) 258,300 粒 昭和 26 年 12 月 15 日 ~ 同 27 年 1 月 8 日 14 ~ 15°C
飼育 投餌開始時期 投餌停止時期 飼料の種類及数量	昭和 27 年 1 月 12 日 ~ 同年 2 月 5 日 昭和 27 年 3 月 14 日 (放流日前日迄) 豚の肝臓 3 貫 100 匁、いさざ 2 貫、米糠 8 升
放流 放流期日及地点 放流尾数 放流時の大きさ 放流に至る迄の減損数	昭和 27 年 3 月 15 日 水戸市水府橋附近 (採卵日からの通算日数 104 ~ 124 日) 154,525 尾 (内 2,525 尾は標識後に放流) 全長 35 ~ 84mm 平均 40.8mm (55 尾抽出測定) 103,775 粒 (尾) (内 2,781 尾は標識後に減損)

標 識 放 流

(1)材 料

放流する鮭稚魚の一部 5,306 尾

(2)標識方法

ウレタン 1.5% 水溶液中に 1 回 50 尾程度を投入して麻酔せしめ、普通の解剖鉗を使用して脂緒を切断した。

標識手術には、魚体が稍々小さかつた為困難を感じたが、全長 60mm 程度以上の魚體では比較的容易であり、且つ標識手術による影響も軽微な模様である。

(3)標識期日及尾数

3月13日	2,078尾
3月14日	920尾
3月15日	808尾
3月22日	1,500尾
計	5,306尾

(4)放流期日地点及尾数

昭和27年4月7日

水戸市水府橋附近

那珂川 2,525尾

標識実施後4月7日迄給餌して飼育したが、減損が意外に多く放流時に残存して居たものは僅かに2,525尾であつた。この原因としては標識手術による影響ばかりでなく管理施設に欠陥を生じた点も挙げられる。

※ 那珂川に於ける本事業は、明治9年(1897年)那珂郡柳河村地先で関沢明晴氏の指導に依り本邦に於ても初めての鮭人工孵化放流が実施されたものである。本場は大正15年農林省令「水産増殖奨励規則」の施行以來、本年度迄本事業を実施して來たが、昭和27年度からは漁業制度の改変に伴い本事業も「地先漁業協同組合」に継続した。